

原著論文

幼稚園実習における音楽・図画工作の教育効果
Effects of Music and Art on Practical Training at a Kindergarten

井上修・花田千絵・坪井真

Osamu Inoue, Chie Hanada, Makoto Tsuboi

【要約】

本研究は、音楽表現・造形表現の〈基礎的な知識・技能を修得する学習活動〉と〈幼児の表現を支えるための感性を豊かにする学習経験〉を関連づけた教育体系の再構築を図る一環として、2年制短期大学（幼稚園教諭養成課程）の学生（調査協力者）が幼稚園実習で活用した音楽教育・造形表現教育の学習成果を実証的に分析・考察した。

その結果、学生（調査協力者）は、実習形態に応じて、授業で修得した音楽表現の知識・技能を活用している特徴が解明された。また、授業で学生が修得した造形表現の知識・技能は、幼稚園実習の様々な造形表現活動に活用されている特徴が解明された。

【キーワード】

幼稚園実習 音楽活動 造形表現活動 幼稚園教諭養成課程 教育効果

I. 問題の所在

1. はじめに

平成30年度より適用される新たな幼稚園教育要領（平成二十九年文部科学省告示第六十二号）は、その前文において「幼児の自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整え、一人一人の資質・能力を育んでいくこと」が「幼児や幼稚園に関わる全ての大人に期待される役割」であり、幼稚園教諭の職務を「家庭との緊密な連携の下、小学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、幼児の自発的な活動としての遊びを通しての総合的な指導」と明記している。そして、幼稚園の新たな教育機能を具現化した概念が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」である。

新たな幼稚園教育要領（以下「新教育要領」という）によれば「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」¹⁾は、①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現であり、「幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮する」重要な概念に位置づけられている。

このような新教育要領の動向に基づき、幼稚園教諭を養成する教職課程（以下「幼稚園教諭養成課程」という）は教育体系の改善を図っている。2017（平成29）年4月に施行された教育職員免許法施行規則（以下「施行規則」という）第6条は、幼稚園教諭の「普通免許状の授与を受ける場合の教職に関する科目の単位の修得方法」について、①領域及び保育内容

の指導法に関する科目（「領域に関する専門的事項」と「保育内容の指導法」）、②教育の基礎的理解に関する科目、③道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、④教育実践に関する科目、⑤大学が独自に設定する科目という構成に改定した。

また、文部科学省中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」（平成 27 年 12 月 12 日）に基づき設置された『教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会』（2017）は、施行規則第 6 条が規定した上記①～④に該当する科目の教職課程コアカリキュラムを示している。しかしながら、①領域及び保育内容の指導法に関する科目の「領域に関する専門的事項」は教職課程コアカリキュラムの対象となっていない。そこで文部科学省の調査研究（2017）を受託した『一般社団法人 保育教諭養成課程研究会』（以下「保育養成課程研究会」という）は「領域に関する専門的事項」のモデルカリキュラムとして、「幼児と健康」「幼児と人間関係」「幼児と環境」「幼児と言葉」「幼児と表現」を提唱している。

保育養成課程研究会によれば、「領域に関する専門的事項」のモデルカリキュラムは、幼稚園教育のねらい・内容を幼児の発達の側面から類型化した 5 つの領域（以下「5 領域」という）、すなわち、①健康、②人間関係、③環境、④言葉、⑤表現が基盤である。このうち「⑤表現」は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「⑩豊かな感性と表現」およびモデルカリキュラムの「幼児と表現」が関連している。

保育養成課程研究会（2017：11-20）が発表した「幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究—幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える—」（以下「モデルカリキュラム調査研究」という）は、「幼児と表現」における下位項目の一般目標を提唱している。（表 1）

表 1 モデルカリキュラム「幼児と表現」における下位項目の一般目標

「幼児と表現」の下位項目	各下位項目の一般目標
(1) 幼児の感性と表現	幼児の表現の姿や、その発達を理解する。
(2) 様々な表現における基礎的な内容	身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。

備考：「モデルカリキュラム調査研究」（保育養成課程研究会 2017）に基づき筆者作成。

また、新教育要領が示す「表現」の内容には「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう」ことや「かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする」ことが明記されている。つまり、幼児の「豊かな感性と表現」を育むため、今後の幼稚園教諭養成課程は、表 1 の「幼児と表現」が示すとおり、音楽表現・造形表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を修得し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする学習経験が重要となる。

さらに前出の『教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会』（2017：29）が発表した『教職課程コアカリキュラム』は、幼稚園における教育実習（以下「幼稚園実習」という）の「保育内容の指導及び学級経営に関する事項」を明示し、一般目標として「大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付け

る」と記している。したがって、授業（音楽・図画工作などの科目）で学んだ音楽表現・造形表現の知識・技能と幼稚園実習を関連づけた教育体系の再構築は、幼稚園教諭養成課程の向上を図るうえで重要な研究課題といえよう。

2. 先行研究の検討および本研究の目的

幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程の音楽表現に関する教育（以下「音楽教育」という）を主題とした主な先行研究は、学生のピアノ演奏技法・能力と教育効果に着目した青井・難波・他（2014）や白川^ひ・白川^ち（2017a・2017b）の研究、旧幼稚園教育要領・旧保育所保育指針における「音楽」とリトミックの特徴を比較分析した長嶋・五味（2014）の研究である。

このうち、青井・難波・他（2014）の先行研究は、3年制短期大学における音楽教育の実態調査をととして、学生一人ひとりのピアノ演奏力を客観的に把握する基準（ピアノレベル）の有効性を論究している。当該研究は、学生のピアノ演奏技法・能力と教育効果を把握する基準の重要性を解明している。しかしながら、音楽表現全般の授業展開と教育効果の関連性は今後の研究課題である。

また、音楽教育と幼稚園実習を関連づけた主要な先行研究は、幼稚園実習の音楽活動と学生の意識変容を分析した平尾・滝沢（2017）の調査研究である。平尾ら（2017：61）によれば、幼稚園実習の「さまざまな場面で幼児曲の弾き歌い」を経験した多くの学生（調査対象者）は、幼児曲の「レパートリーの拡大について学習意欲を高め、弾き歌いの技術向上」を課題にあげたという。また、「ピアノ技術や楽器の知識についてはあまり重要と考えていない傾向も明確化された」と論じている。平尾らの調査結果は、幼稚園実習における学生のニーズが音楽表現の実践的な知識・技能であることを示している。しかしながら、平尾らは、調査結果に基づき音楽教育の授業改善を考察しており、授業（「音楽」などの科目）で学んだ音楽表現の知識・技能と幼稚園実習の関連性は、今後の研究課題として残されている。

一方、造形表現に関する教育（以下「造形表現教育」という）を主題とした主な先行研究は、幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程における造形表現の授業改善を論じた守川（2000）の研究、「子ども理解の観点」から「幼稚園教諭養成課程における図画工作教育の題材開発」を論じた葉山（2011）の研究である。このうち、守川（2000：152）は、授業内容の検討と「受講生」に対するアンケート調査の結果をととして、「受講生の美的感覚や発想力、表現力を養うための指導の充実」や「幼児の造形表現活動に対する指導上の留意事項や幼児の作品に対する評価法などについての指導の充実」、「受講生が身のまわりの美しいものや良いものに目を向け、それを表現する経験」の深化などをあげている。守川の研究成果は、造形表現教育を改善するうえで示唆に富む内容である。

また、造形表現教育と幼稚園実習・保育実習を関連づけた主要な先行研究として、幼稚園実習・保育実習における造形活動の実態を分析した島田（2015）の調査研究がある。島田（2015：111-112）によれば、学生（調査対象者）が実習中の造形活動で最も重視したことは「幼児の発達」「幼児の興味関心」「季節や行事とのつながり」であり、実習中の造形活動を設定する際、9割近くの学生が授業で学んだことを参考にしたという。この調査成果は、幼稚園実習・保育実習と授業における学習成果の関連性を示唆している。しかしながら、実習中の造形表現活動で活用した授業内容の分析は、今後の研究課題として残されている。

以上の先行研究における成果と課題を整理するならば、幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程の音楽教育は、①学生のピアノ演奏技法・能力と教育効果を把握する基準が重要である点、②幼稚園実習における学生のニーズは音楽表現の実践的な知識・技能である点が特徴として明示された。しかしながら、①音楽表現全般の授業展開と教育効果の関連性を解明する取り組み、②授業で学んだ音楽表現の知識・技能と幼稚園実習の関連性を解明する取り組みは今後の研究課題である。一方、幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程の造形表現教育は、①学生の美的感覚や発想力・表現力醸成や幼児の造形表現活動の指導力向上などの造形表現教育を改善する方向性、②幼稚園実習と造形表現教育の授業における学習成果の関連性が特徴として明示された。しかしながら、実習中の造形表現活動で活用した授業内容の分析は今後の研究課題である。

そこで本研究は、幼稚園教諭養成課程に焦点を絞り、音楽表現・造形表現の〈基礎的な知識・技能を修得する学習活動〉と〈幼児の表現を支えるための感性を豊かにする学習経験〉を関連づけた教育体系の再構築を図る一環として、2 年制短期大学の学生が幼稚園実習で活用した音楽教育・造形表現教育の学習成果を実証的に分析・考察する。

Ⅱ．本研究の対象と方法

1．本研究の調査対象者と調査方法

幼稚園教諭養成課程の学生が幼稚園実習で活用した音楽教育・造形表現教育の学習成果を実証的に分析・考察するため、本研究は、筆者（井上・花田・坪井）が勤務する 2 年制短期大学（幼稚園教諭養成課程）の 2 年生を調査対象者とする。なお、調査対象者のうち、本研究の協力者（以下「調査協力者」という）は、音楽教育が 112 名、造形表現教育が 114 名である。調査方法は自由記述式の質問票を作成・活用し、①調査協力者が幼稚園実習の音楽活動で役に立った関連科目の授業内容、②調査協力者が幼稚園実習の造形表現活動で役に立った関連科目の授業内容を自筆の記述データとして収集・把握した。調査期間は、調査協力者が幼稚園実習Ⅱ（2 年前期）を修了した平成 29（2017）年 11 月（2 年後期）である。

2．本研究の方法

本研究は、音楽表現・造形表現の〈基礎的な知識・技能を修得する学習活動〉と〈幼児の表現を支えるための感性を豊かにする学習経験〉を関連づけた教育体系の再構築を論究するため、研究目的に基づく理論命題を設定する。

【理論命題】幼稚園教諭養成課程の授業で学生が修得した音楽表現・造形表現の知識・技能は、幼稚園実習の音楽活動・造形表現活動に活用されている。

調査協力者が学ぶ幼稚園教諭養成課程は、音楽教育・造形表現教育を段階的かつ体系的に配置している。このうち、音楽教育の関連科目は音楽Ⅰ・音楽Ⅱ・音楽Ⅲ・音楽Ⅳ（以下、総称する場合は「音楽」という）であり、造形表現教育の関連科目は図画工作Ⅰ・図画工作Ⅱ・

図画工作Ⅲ・図画工作Ⅳ（以下、総称する場合は「図画工作」という）である。また、幼稚園実習は、幼稚園実習Ⅰ（1年前期）と幼稚園実習Ⅱ（2年前期）を各学年に配置している。

そこで本研究は、上記の理論命題をレベル移行し、調査協力者が学ぶ幼稚園教諭養成課程の関連科目および幼稚園実習の教育目的・内容に基づく作業仮説を設定する。

【作業仮説①】音楽で学生が修得した音楽表現の知識・技能は、幼稚園実習の音楽活動に活用されている。

【作業仮説②】図画工作で学生が修得した造形表現の知識・技能は、幼稚園実習の造形表現活動に活用されている。

上記の作業仮説を論証するため、本研究は、調査協力者の回答結果を分析し、幼稚園実習で活用した授業（音楽・図画工作）の教育内容および現行の音楽教育・造形表現教育に内在する課題を考察する。なお、分析プロセスは、以下のとおりである。

- ①音楽・図画工作のシラバスに記された「授業の到達目標及びテーマ」と「授業の概要及び授業計画」および調査協力者の回答内容（自筆の記述データ）を Microsoft Excel®に入力し、テキスト型データに変換する。さらにテキスト型データを Word Miner®（テキスト・マイニングのソフトウェア）で分析し、キーワード群を抽出する。
- ②調査協力者の回答内容（テキスト型データ）から抽出したキーワード群の度数に基づき、量的分析（ χ^2 検定による統計分析）をおこなう。
- ③各科目の教育内容に関するキーワード群と調査協力者の回答内容に関するキーワード群を比較分析し、作業仮説①および作業仮説②を検証・考察する。

Ⅲ．結果と考察

1．作業仮説①の分析結果と考察

作業仮説①を検証するため、まず、調査協力者が学ぶ音楽のシラバスに記された「授業の到達目標及びテーマ」と「授業の概要及び授業計画」から教育内容に関連するキーワード群を抽出した。（表2）

さらに調査協力者（112名）の回答内容（テキスト型データ）を Word Miner®で分析し、音楽と幼稚園実習に関連するキーワード群を抽出した。（表3）

このうち、下線付きのキーワードは、調査協力者が幼稚園実習で音楽の知識・技能を活用した実践場面を示している。とりわけ部分実習および責任実習は、音楽Ⅰ・音楽Ⅱよりも音楽Ⅲ・音楽Ⅳで多くの調査協力者が実習場面に挙げている。作業仮説①に基づき換言するならば、音楽Ⅲ・音楽Ⅳで学生が修得した音楽表現の知識・技能は、部分実習と責任実習の音楽活動に活用されているといえよう。

そこで各科目における部分実習・責任実習の度数（合算した数値）を χ^2 検定により検定した。その結果、1年後期に履修する音楽Ⅱと1・2年通年で履修する音楽Ⅲは、今回の度数で検出できる差が認められなかった（ $p>0.05$ ）。一方、1年前期に履修する音楽Ⅰと2年通年で

履修する音楽Ⅳは有意差が認められた ($p<0.05$)。したがって、多くの調査協力者は音楽Ⅰで修得した音楽表現の知識・技能を部分実習・責任実習以外の実習場面で活用していた可能性が高く、音楽Ⅳで修得した音楽表現の知識・技能を部分実習・責任実習の音楽活動に活用していた可能性が高い。この結果は、幼稚園実習Ⅰ・幼稚園実習Ⅱの学習内容と関連しているのではないか。

表2 音楽Ⅰ・音楽Ⅱ・音楽Ⅲ・音楽Ⅳの教育内容に関連するキーワード群

科目名 開講時期	キーワード群 A (授業の到達目標及びテーマ)		キーワード群 B (授業の概要及び授業計画)		
音楽Ⅰ 1年前期	保育現場	楽典	音楽教育	小節	コードマーク
	音楽活動	アプローチ	五線	縦線終止線	音程
	基礎的な知識	知識	音部記号	反復記号	音程：長・短
	基礎的な実践力	技能	大譜表	拍子記号	音程：完全
	童謡	実践力	音符の種類	音名	音程：増・減
	季節の唱歌	実務能力	付点	階名	音程：相互関係
	レパートリー		変化記号	ダ・カーボ	楽典
	楽譜		休符	ダル・セーニョ	
音楽Ⅱ 1年後期	保育現場	技能	楽典	コードネーム	主要三和音
	音楽活動	実践力	長調	三和音・七の和音	属七の和音
	基礎的能力	実務能力	短調	和音：基本形	和音の配置
	歌詞		近親調：属調	和音：転回形	トニック
	伴奏		近親調：下屬調	三和音の種類	サブドミナント
	コード		近親調：平行調	ダイアトニック・	ドミナント
	知識		近親調：同主調	コード	
音楽Ⅲ 1・2年通年	保育者	知識	個人レッスン形式	コード伴奏のアレンジ法	
	ピアノ技能	技能	テクニック	ピアノグレード表	
	スキル	実践力	譜読みの方法	必修課題曲（27曲）	
	コード伴奏	実務能力	ペダルの使用法	選択課題曲	
音楽Ⅳ 2年通年	保育現場	伴奏法	個人レッスン形式		
	行事の歌	知識	ピアノグレード表		
	季節の歌	技能	必修課題曲（27曲）		
	子どもの歌	実践力	選択課題曲		
	レパートリー	実務能力			

備考：①音楽Ⅰのシラバスに記載された童謡・季節の唱歌は42曲である。②音楽Ⅱのシラバスに記載された童謡・季節の唱歌は45曲である。

表4に示したとおり、幼稚園実習Ⅰ（1年前期）は見学実習・観察実習・参加実習中心であり、幼稚園実習Ⅱ（2年前期）は参加実習・部分実習・責任実習中心である。このうち、幼稚園実習Ⅰは9月に実施するため、調査協力者は1年前期の音楽Ⅰを履修した後に取り組む。

したがって、音楽Ⅰで修得した音楽表現の知識・技能は、幼稚園実習Ⅰの見学実習・観察実習・参加実習で活用される可能性が高いといえよう。

表 3 幼稚園実習の音楽活動で役に立った音楽の授業内容（度数 2 以上のキーワード群）

科目名	調査協力者の回答内容（テキスト型データ）から抽出したキーワード群			
音 楽 Ⅰ	季節の歌(8)	伴奏(4)	おかえりのうた(2)	譜読み(2)
	コード(7)	たくさんの歌(3)	<u>マーチング練習</u> (2)	譜面(2)
	童謡(6)	楽譜(3)	リズム(2)	幼児音楽(2)
	音楽の基礎(5)	楽譜の読み方(3)	基礎的(2)	
	楽典(5)	色々な歌(3)	<u>季節の行事</u> (2)	
	レパートリー(4)	部分実習(3)	責任実習(2)	
音 楽 Ⅱ	季節の歌(15)	レパートリー(3)	<u>部分実習</u> (3)	朝の歌(2)
	コード(8)	歌詞の意味(3)	<u>マーチング練習</u> (2)	伴奏(2)
	楽譜(7)	楽しさ(3)	リズム(2)	譜読み(2)
	<u>責任実習</u> (6)	楽譜の読み方(3)	音楽遊び(2)	練習(2)
	楽典(4)	童謡(3)	指導(2)	和音(2)
音 楽 Ⅲ	<u>責任実習</u> (15)	ピアノ試験(6)	<u>帰りの会</u> (3)	リズム(2)
	<u>部分実習</u> (13)	おべんとう(5)	季節の歌(3)	課題(2)
	練習(13)	実践(5)	技術(3)	楽譜(2)
	ピアノ伴奏(10)	おかえりのうた(4)	<u>朝の会</u> (3)	季節の曲(2)
	レッスン(10)	レパートリー(4)	保育者(3)	
	おはよう(6)		色々な歌(2)	
音 楽 Ⅳ	<u>責任実習</u> (20)	季節の歌(6)	<u>帰りの会</u> (3)	季節の曲(2)
	<u>部分実習</u> (13)	季節(4)	実践(3)	技術(2)
	レッスン(11)	レパートリー(3)	朝の歌(3)	<u>朝の会</u> (2)
	ピアノ伴奏(9)	楽譜(3)	ピアノ試験(2)	
	練習(9)		リトミック(2)	

備考：①キーワード末尾の数字は度数を示す。②下線付きのキーワードは実習場面に関する語句。

一方、音楽Ⅱ（1年後期）と音楽Ⅲ（1・2年通年）は、 χ^2 検定の結果で差は認められなかった。つまり、音楽Ⅱ・音楽Ⅲで修得した音楽表現の知識・技能は、幼稚園実習Ⅰ（見学実習・観察実習・参加実習）と幼稚園実習Ⅱ（参加実習・部分実習・責任実習）の双方で活用される可能性が高い。とりわけ、幼稚園実習Ⅰ・幼稚園実習Ⅱに共通する参加実習は、音楽Ⅱ・音楽Ⅲの教育内容を改善する鍵概念といえよう。

次に表 3 のキーワード群と表 2 のキーワード群を比較観察したところ、度数が多い表 3 の「季節の歌（度数 32）」「コード（度数 15）」「楽譜（度数 15）」は、シラバスの「授業の到達目標及びテーマ」から抽出した表 2 のキーワード群 A と共通している。一方、表 3 の音楽Ⅲ・音楽Ⅳで度数が多い「レッスン（度数 21）」は、シラバスの「授業の概要及び授業計画」（表 2 のキーワード群 B）から抽出した「個人レッスン形式」に含まれるキーワードである。ま

た、音楽Ⅲ・音楽Ⅳで度数が多い「練習（度数 22）」「ピアノ伴奏（度数 19）」は表 2 に記載されていないが、上述の「個人レッスン形式」と関連するキーワードである。つまり、調査協力者が幼稚園実習で役立ったと考えるキーワード群は、幼稚園の実践・実務に役立つ教育内容（「季節の歌」「コード」「楽譜」）とピアノ演奏の技能修得に関連するキーワード群であるといえよう。

表 4 幼稚園実習Ⅰ・幼稚園実習Ⅱの実習形態（学習内容）

科目名	実習形態（学習内容）
幼稚園実習Ⅰ	<p>見学実習・観察実習・参加実習を総合的におこない、実践力の滋養を図る。</p> <p>【見学実習】幼稚園の環境や子どもたちの生活状況を概観する。</p> <p>【観察実習】子どもたちの生活状況および発達の違いに気づく。また、担当するクラスの生活のながれや子どもの様子、保育者のかかわりを客観的に観察する。</p> <p>【参加実習】見学・観察実習をふまえて、子どもたちの生活の中に入っていく段階の実習である。担当保育者の助手的な役割を果たしながら、子どもの実態や保育者の役割について体験を通して学ぶ。</p>
幼稚園実習Ⅱ	<p>参加実習・部分実習・責任実習を中心におこなう。</p> <p>【参加実習】※幼稚園実習Ⅰの参加実習と同じ学習内容</p> <p>【部分実習】保育の一部を実習生が担当する。紙芝居などの部分的な保育から徐々に保育の場面を拡充していく。部分実習は、計画（保育指導案作成）→実践→反省→担当保育者による講評→再考察→次の保育というプロセスでおこなう。</p> <p>【責任実習】保育を丸一日実習生が担当する。保育の指導案は登園から降園までを通した「日案」と、その日の主活動の案である「細案」を作成する。</p>

備考：調査協力者が学ぶ幼稚園実習Ⅰ・幼稚園実習Ⅱのシラバスに基づき筆者作成。

以上の議論を整理するならば、幼稚園実習Ⅰ・幼稚園実習Ⅱで取り組む実習形態（表 4）により、調査協力者が幼稚園実習で重視する音楽の教育内容（修得した音楽表現の知識・技能）も変容していると考える。作業仮説①に基づき換言するならば、調査協力者は、実習形態に応じて、授業（音楽Ⅰ・音楽Ⅱ・音楽Ⅲ・音楽Ⅳ）で修得した音楽表現の知識・技能を活用しているといえよう。

2. 作業仮説②の分析結果と考察

作業仮説②を検証するため、まず、調査協力者が学ぶ「図画工作」のシラバスに記された「授業の到達目標及びテーマ」と「授業の概要及び授業計画」から教育内容に関連するキーワード群を抽出した。（表 5）

さらに調査協力者（114 名）の回答内容（テキスト型データ）を Word Miner®で分析し、図画工作と幼稚園実習に関連するキーワード群を抽出した。（表 6）

このうち、下線付きのキーワードは、調査協力者が幼稚園実習で造形表現活動の知識・技能を活用した実践場面を示している。前出の音楽同様、部分実習と責任実習は全科目で多くの調査協力者が実習場面に挙げている。とりわけ、図画工作Ⅲでは責任実習の度数が 40 と多

い。作業仮説②に基づき換言するならば、図画工作で調査協力者が修得した造形表現の知識・技能は、部分実習と責任実習の造形表現活動に活用されており、特に図画工作Ⅲの教育内容が責任実習で重視されていると考える。

表5 図画工作Ⅰ・図画工作Ⅱ・図画工作Ⅲ・図画工作Ⅳの教育内容に関連するキーワード群

科目名 開講時期	キーワード群 A (授業の到達目標及びテーマ)	キーワード群 B (授業の概要及び授業計画)
図画工作Ⅰ 1年前期	造形の基礎 幼児の造形表現の発達 知識 技能 実践力 実務能力	造形 題材 かけ絵 色彩 基礎技法 はじき絵 色面構成 フロッタージュ にじみ絵 形 ちぎり絵 型押し絵 デッサン 指絵 ビー玉版画 造形能力の発達 ドリッピング デカルコマニー 幼児画の特徴 吹き絵 評価 指導内容 流し絵 鑑賞
図画工作Ⅱ 1年後期	基礎技法 技能 造形あそび 実践力 表現活動の楽しさ 実務能力 製作の喜び 造形教育の本質 知識	壁画制作 紋切遊び アイディア 基礎技法 動くおもちゃ 個人活動 マープリング 紙で作る グループ活動 紙版画 ビニールで作る 着彩 スクラッチ お面づくり 仕上げ コラージュ テーマ 鑑賞
図画工作Ⅲ 2年前期	幼児の発達 実践力 教材研究 実務能力 指導計画 様々な素材による表現 実習でも実践できる能力 知識 技能	動くおもちゃ 魚釣りゲーム 絵本製作 割りピン 教材研究 アイディア 牛乳パック 責任実習 下絵 発泡スチロール 試作品 貼り絵 造形 指導計画 仕上げ・完成 季節の教材 紙による造形 絵本発表 はじき絵 ポップアップカード 鑑賞
図画工作Ⅳ 2年後期	様々な素材による表現 保育の現場で実践できる力 知識 技能 実践力 実務能力	造形遊び 自然素材:木片ダ 個人活動 壁画制作 ンボール素材部 グループ活動 粘土造形 品作り 仕上げ 袋の制作 組み立て 鑑賞 レリーフ テーマ 石膏取り アイディア

そこで各科目における部分実習・責任実習の度数（合算した数値）を χ^2 検定により検定した。その結果、図画工作Ⅰ（1年前期）・図画工作Ⅱ（1年後期）・図画工作Ⅳ（2年後期）は、今回の度数で検出できる差が認められなかった（ $p>0.05$ ）。一方、2年前期に履修する図画工作Ⅲは有意差が認められた（ $p<0.05$ ）。この結果は、図画工作Ⅲに「責任実習」を想定した教

育内容（表 5 のキーワード群 B）が含まれていることから理解できる。作業仮説②に基づき換言するならば、図画工作Ⅲで調査協力者が修得した造形表現の知識・技能は、幼稚園実習Ⅱの責任実習における造形表現活動で重要な役割を担っているといえよう。

表 6 幼稚園実習の造形表現活動で役に立った図画工作の授業内容（度数 2 以上のキーワード群）

科目名	調査協力者の回答内容（テキスト型データ）から抽出したキーワード群			
図画 工作Ⅰ	技法(18)	発達段階(4)	絵具(2)	色の塗り方(2)
	製作(14)	工夫(3)	活用(2)	声掛け(2)
	責任実習(13)	方法(3)	指導案(2)	製作活動(2)
	折り紙(8)	おもちゃ(3)	支援(2)	製作物(2)
	工作(7)	ちぎり絵(2)	主活動(2)	素材(2)
	部分実習(5)	レパートリー(2)	手順(2)	描き方(2)
	絵(4)	絵画(2)	色の使い方(2)	
図画 工作Ⅱ	責任実習(22)	素材(4)	季節(2)	製作活動(2)
	製作(18)	製作物(3)	教え方(2)	注意(2)
	技法(13)	切り絵(3)	作り方(2)	注意点(2)
	折り紙(7)	アイディア(2)	主活動(2)	発達段階(2)
	工作(6)	はじき絵(2)	手順(2)	壁画(2)
	部分実習(6)	絵(2)	準備物(2)	
図画 工作Ⅲ	責任実習(40)	工作(4)	アイディア(2)	試作品(2)
	製作(24)	素材(4)	魚釣りゲーム(2)	声掛け(2)
	主活動(9)	実践(3)	工夫(2)	製作物(2)
	季節(7)	製作活動(3)	使い方(2)	知識(2)
	技法(7)	折り紙(3)	指導案(2)	注意(2)
	部分実習(5)	廃材(3)	指導計画(2)	展開(2)
図画 工作Ⅳ	責任実習(13)	部分実習(3)	製作活動(3)	時計(2)
	製作(10)	工作(3)	画用紙(2)	製作物(2)
	技法(5)	工夫(3)	絵本(2)	素材(2)
	粘土(5)	主活動(3)	指導案(2)	廃材(2)

備考：①キーワード末尾の数字は度数を示す。②下線付きのキーワードは実習場面に関する語句。

次に表 6 のキーワード群と表 5 のキーワード群を比較観察したところ、調査協力者が幼稚園実習の造形表現活動で重視した教育内容（度数 2 以上のキーワード群）は、表 5 のキーワード群 A（シラバスの「授業の到達目標及びテーマ」から抽出したキーワード群）だけでなく、キーワード群 B（シラバスの「授業の概要及び授業計画」から抽出したキーワード群）を含んでいる。この特徴は前出の音楽と異なる結果であった。

また、度数が多い表 6 の「製作（度数 66）」「技法（度数 43）」は、表 5 のキーワード群に含まれる造形表現活動の基本用語といえよう。しかしながら、表 6 の「工作（度数 20）」「折り紙（度数 18）」は図画工作の教育内容（表 5）に記載されていない。このうち、「工作」は

意味が広範囲であり、授業の科目名にも含まれている。その結果、多くの調査協力者が造形表現活動を「工作」と理解・判断したのではないか。また、「折り紙」の度数が多い要因は、図画工作Ⅱの導入プログラム（15分程度）として、複数回の授業に折り紙の折り方および指導法を教授した結果と考える。

以上の議論を整理するならば、図画工作で調査協力者が修得した造形表現の知識・技能は、幼稚園実習の様々な造形表現活動に活用されているといえよう。

IV. 結論

本研究は、調査協力者の回答内容（幼稚園実習で役立った音楽表現の知識・技能ならびに幼稚園実習で役立った造形表現の知識・技能）を分析し、幼稚園実習で活用した授業（音楽・図画工作）の教育内容を分析・考察した。その結果は以下のとおりである。

(1) 修得した音楽表現の知識・技能と幼稚園実習の音楽表現について（作業仮説①）

- ①音楽Ⅰで修得した音楽表現の知識・技能は、幼稚園実習Ⅰの見学実習・観察実習・参加実習で活用される可能性が高い。
- ②音楽Ⅱ・音楽Ⅲで修得した音楽表現の知識・技能は、幼稚園実習Ⅰと幼稚園実習Ⅱの双方で活用される可能性が高い。とりわけ、幼稚園実習Ⅰ・幼稚園実習Ⅱに共通する参加実習は、音楽Ⅱ・音楽Ⅲの教育内容を改善する鍵概念に位置づけられる。
- ③音楽Ⅲ・音楽Ⅳで調査対象者が修得した音楽表現の知識・技能は、部分実習と責任実習の音楽活動に活用されている。
- ④調査協力者は、実習形態に応じて、授業（音楽Ⅰ・音楽Ⅱ・音楽Ⅲ・音楽Ⅳ）で修得した音楽表現の知識・技能を活用している。

(2) 修得した造形表現の知識・技能と幼稚園実習の造形表現について（作業仮説②）

- ①調査協力者が修得した造形表現の知識・技能は、部分実習と責任実習の造形表現活動に活用されており、特に図画工作Ⅲの教育内容が責任実習で重視されている。
- ②図画工作Ⅲで調査協力者が修得した造形表現の知識・技能は、幼稚園実習Ⅱの責任実習における造形表現活動で重要な役割を担っている。
- ③図画工作で調査協力者が修得した造形表現の知識・技能は、幼稚園実習の様々な造形表現活動に活用されている。

今後は、本研究の成果に基づき音楽・図画工作の教育内容を見直し、下記のとおり、音楽表現・造形表現の〈基礎的な知識・技能を修得する学習活動〉と〈幼児の表現を支えるための感性を豊かにする学習経験〉を関連づけた教育体系に改善したい。

【幼稚園実習の実習形態に基づき改善した音楽の教育内容】

音楽Ⅰでは、観察実習・参加実習等で活用できる曲などの幅広い基礎知識を学ぶ。また、音楽Ⅱでは、音楽Ⅰの学習成果を掘り下げ、部分実習・責任実習で豊かな音楽表現活動に応用出来るよう知識・技能の理解を深める。さらに音楽Ⅲ・Ⅳは、修得した音楽表現の知識・技能を実践力・応用力に発展させる。具体的には、個人レッスンにおける音楽表現活動の経験（弾き歌いなど）を蓄積する。

【幼稚園実習の実習形態に基づき改善した図画工作の教育内容】

図画工作Ⅰでは、幼児の造形表現活動を理解するため、造形表現の基礎的な知識・技能を

修得する。また、図画工作Ⅱは、幼稚園実習Ⅰ（観察実習・参加実習等）の事後学習と関連づけながら、造形表現の知識・技能を応用できる実践力・発想力・思考力の醸成を図る。さらに図画工作Ⅲは、幼稚園実習Ⅱの責任実習で活用する造形表現の具体的な知識・技能を学び、図画工作Ⅳにおいて造形表現の知識・技能を発展させる。

以上の教育改善と併行しつつ、今後は、本研究と同じ調査協力者が取り組んだ保育実習の音楽表現活動・造形表現活動と音楽・図画工作で修得した専門知識・技能の関係性を分析し、幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程における実習体験と音楽教育・造形表現教育の学習成果を比較考察したい。

注

- 1) 平成30年度適用の保育所保育指針（平成二十九年厚生労働省告示第百十七号）も「幼児教育を行う施設として共有すべき事項」として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明記している。

文献

- 1) 青井則子・難波希久子・中川智之・入江慶太（2014）「幼稚園教諭・保育士養成における音楽教育の実践と評価ー3年制短期大学における取り組みー」『川崎医療短期大学紀要』34, 19-27.
- 2) 葉山登（2011）「保育者養成課程における図画工作教育の題材開発(1)ー子ども理解の観点から描画題材を構想するー」『川村学園女子大学研究紀要』22(1), 171-195.
- 3) 平尾憲嗣・滝沢ほだか（2017）「保育者養成における幼児音楽の学びについてー幼稚園実習における音楽の活動に着目してー」『岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要』50, 57-65.
- 4) 保育養成課程研究会（2017）『幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究-幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える-』一般社団法人 保育教諭養成課程研究会
- 5) 厚生労働省（2017）『保育所保育指針（平成二十九年厚生労働省告示第百十七号）』厚生労働省
- 6) 文部科学省中央教育審議会答申（2015）『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～』文部科学省
- 7) 文部科学省（2017）『幼稚園教育要領（平成二十九年文部科学省告示第六十二号）』文部科学省
- 8) 守川美輪（2000）「保育士及び幼稚園教諭養成課程における授業研究ー『保育内容の研究表現』（造形表現）についてー」『宮崎女子短期大学紀要』26, 141-155.
- 9) 長嶋礼・五味克久（2014）「保育におけるリトミックの意義に関する一考察ー幼稚園教育要領・保育所保育指針における音楽とリトミックの比較分析」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』8(1), 199-210.
- 10) 島田由紀子（2015）「保育系学生の実習における造形活動」『和洋女子大学紀要』55, 109-117.
- 11) 白川浩・白川千春（2017a）「4年制大学の保育士・幼稚園教諭養成課程におけるピアノ演奏技能の教育内容とその展望(I)」『島根県立大学 人間と文化』1, 57-61.
- 12) 白川浩・白川千春（2017b）「4年制大学の保育士・幼稚園教諭養成課程におけるピアノ演奏技能の教育内容とその展望(II)」『島根県立大学 人間と文化』1, 63-67.